

会 議 録

1 会議名

令和6年度第1回上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員会議

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 令和5年度事業報告について（公開）
- (2) 令和6年度事業計画について（公開）
- (3) 令和6年度事業訪問について（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

令和6年4月26日（金） 午前10時00分～11時45分

4 開催場所

上越市教育プラザ研修棟3階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：茨木委員、江村委員、亀山委員、小玉委員、小林委員、佐野委員、鈴木委員、高橋委員、土屋委員、中條委員、平田委員、松井委員、山川委員、山崎委員、渡邊委員
- ・事務局：宮崎社会教育課参事、長谷川中央公民館長、竹内副課長、石田青少年健全育成センター所長、岡田係長、池田係長、宮川係長、増田主任、岩片主任

8 発言の内容（要旨）

- (1) 開会

(2) 委員長挨拶

(3) 副委員長の選出

委員より事務局案はあるかとの声があり、事務局が、亀山委員を提案し、承認された。

(4) 議 事

①令和5年度事業報告について

— 資料No.1に基づき事務局説明 —

高橋委員：各学校が地域コーディネーターとうまく連携がとれないという話も聞いている。校長会からの推薦で委員になっているので、情報を教えてもらい、連携できる方法を考えていきたい。

山崎委員：社会を明るくする運動の作文コンクールについて、多くの学校に参加してもらえよう働きかけるとあるが可能か。

事務局：作文については、授業で行うのではなく、夏休みの宿題となることが多く、子どもたちに任せている学校が多い。社会の犯罪防止について、子どもたちにも関心を持ってもらいたいということが一番であると考えているので、継続して周知していきたい。

②令和6年度事業計画について

— 資料No.2に基づき事務局説明 —

江村委員：二十歳を祝うつどいについて、昨年より参加者数が多くなっているようだが、コロナ禍前と比べてどうか。

事務局：コロナ禍前の水準に戻りつつあると考えている。

江村委員：群馬県板倉町との交流が、令和5年度は中止になったようだが、令和6年度は実施可能か。

事務局：令和5年度は、群馬県の板倉町の都合で上越市に来ることが出来なかったが、職員体制等も変わったと聞いているので、受入れに向けて準備をしていきたい。

江村委員：岩内交流事業は、岩内町から来るだけで、上越市から行くことはないのか。

事務局：当初、港町町内会が相互交流事業として実施していたが、当市の参加者の減少から、現在は、岩内町の子どもたちを迎えるだけとなっている。岩内町に行くには、行き・帰りと船の中でそれぞれ一泊しないといけないこともあり、日程的にも難しい。

山川委員：街頭指導活動事業は現在必要なのか。まとめられる事業はまとめるべきであり、この会議での意見が反映されているのか疑問である。以前も伝えたが、同和教育だけを取り上げるのではなく、他の人権問題もたくさんあり、横のつながりが大切である。市の職員だけでなく、いろいろな人が集まった部会を開くのもよい。

事務局：市としても、毎年、それぞれの事業の評価をしている。その中で、委員の皆さんからの意見も反映できるよう検討している。人権教育についても、多文化共生課で同和教育以外の様々な人権問題について取り組んでいるので連携しながらやっていきたい。

小林委員：中学生の文化環境づくりの充実とあるが、中学生だけでなく、小学生にも関係する。文化庁の事業で、日本舞踊キャラバンが新潟市に来る。なかなか触れる機会がないので、子どもたちにも見てもらいたい。当事業は、ホームページにも掲載されると思うが、学校現場等でも啓発していただきたい。

土屋委員：二十歳を祝うつどいで、卒業後にどのくらい的人数が上越市に残ったかアンケート等を求めたか。卒業後、上越市に残っている人はどのくらいいるか。

また、卒業の翌年の夏休みに集まる機会を提供する事業を社会教育でできないか。市内のバスを乗り放題にし、上越を再発見する機会を提供してはどうか。

事務局：アンケートは、お祝いの場合もあるので、その場で求めている。また、配付物もプログラムと記念品のみの最小限としている。どのくらいの方が上越市に残っているかは、県外にいるが住所を動かしていない人も多く、把握できない。市内のバスへの乗り放題については、交通政策課で子どもたちの夏休み期間等に行うなどしている。当市を知る機会の提供については、謙信KIDSプロジェクトなどふるさと上越の魅力を知ってもらう事業も実施している。高校生に限らず、小学生の頃からふるさとを愛する心を養ってもらいたい。

亀山副委員長：先ほども話にでたが、街頭指導の実施とあるが、現在、子どもたちの興味はネット世界にあり、外で悪いことをする子どもが減っている。事業を縮小してもよいのではないか。

渡邊委員長：新規事業が分かりにくい。次回会議の資料では、新規である旨を明記してはどうか。

事務局：次回から記載したい。なお、資料に記載はないが、今年度の新規事業として、各公民館にインターネットの環境整備も行うこととしている。

③ 令和6年度事業訪問について（質疑なし）

— 資料No.3に基づき事務局説明 —

④ その他

■ 令和6年度社会教育委員に関する会議等日程について

— 資料No.4に基づき事務局説明 —

江村委員：全国公民館研究集会での分科会「ICTと公民館」の助言者は、上越教育大学の先生ではなかったか。

事務局：以前は、上越教育大学の先生であったが、現在は、退職されて文部科学省の学校DX戦略アドバイザーとなっている。

江村委員：委員の名札が苗字のみとなっているが、今後、苗字のみの名札を使用するということか。

事務局：全国的にニュースにもなっているが、行政職員へのカスタマーハラメントが問題になっており、上越市の職員は、5月1日から苗字のみの名札に変更する。委員の皆さんは、状況に応じてご自身で使い分けていただきたい。

(5) その他

茨木委員：私が行っている事業で、小・中学生を対象にしたイベントを開催する際に、各学校分のチラシを印刷し、学校で配ってもらっていた。先日の地域クラブフェアの会議に出席した際に、子どもたちは、それぞれタブレットを持っているのでウェブ上で広報を流すという話を聞いた。ウェブで流すことができるのであれば、印刷費用や手間もかからないので、依頼する窓口があれば、明示していただきたい。

事務局：小・中学校への広報は、社会教育のものであれば、社会教育課へいただければ、窓口となる学校教育課へ伝え、対応する。
ただし、学校現場では、チラシの配布やウェブ上にあげるものの依頼がたくさんあり、先生方の働き方改革に逆向し、苦勞している。今後、より良い方法を考えていかななくてはならない。

(6) 閉会

9 問合せ先

上越市教育委員会社会教育課 TEL：025-545-9245（内線 2741）
E-mail：shakaikyouiku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。